

なかのなっちょ隊 通信

2018年6月
Vo.3

～支え合いの地域へ～

なかのなっちょ隊（第1層協議体）とは

「なっちょだい？」と声をかけあいながら、みんながつながって支え合えるよう、地域が求めているもの、地域に求められているもの、をみんなで考え、見つけ、情報を発信していく場。

参加団体：

社会福祉協議会、北信総合病院、ジェイエイ・アップル、高水福祉会、シルバー人材センター、介護支援専門員連絡会、民生児童委員協議会、長寿社会開発センター北信支部、地域振興課・高齢者支援課

6月25日、第8回なかのなっちょ隊`が行われました。



前回の話し合いの中でだされた「なかのなっちょ隊`を説明する言葉」という内容について考えました。

○声をかけ合う

○宝（人・活動・場・想い）探し

○支え合う・つながる・情報発信

といったそれぞれが思う言葉や、描くイメージが話し合われ、上記の表現が生まれました。

この言葉を使って参加者のみなさんが色々な場でなかのなっちょ隊`について話されていくなかで、地域に浸透していければと感じました。

地域づくり活動発表交流会のテーマについても話し合いました。

○地域が求めているモノ、地域に求められているモノが見つかるような場

○世代間交流の場

といった意見の中で、

『地域や人によってニーズは様々であり、まずは幅広く色々な活動を知ってもらうことが活動のきっかけづくりとなるのではないか。テーマを絞らずに、広く様々な活動を色々な方に知っていただく場にしよう。』

とまとまりした。

また交流会に参加された方が地域の課題についても知ることができ、担い手へとつながれるような「なかのなっちょ隊`ブース」も設けることになりました。



次回は発表団体について話し合っていきたいと思います。

現状の課題

友人・隣人との交流



支援や介護が必要になると、友人・隣人との関係は希薄になり、支援を受ける二方向の人間関係に変化

地域生活は専門職だけでは
支えられない
「ご近所からボランティア、
専門職までみんなで支える」



専門職サービス
はあるけど

これまでの地域との
つながりは疎遠に？

これから

専門職サービス



一緒に体操

おかずをおすそ分け

お掃除のお手伝い

友人・隣人との
“お互いさま
の助け合い”

一緒にお買い物

ご近所同士で茶話会

“お互いさまの助け合い”の輪を広げていくことで、支援や介護が必要になっても、地域社会の中から切り離されず、なじみの関係を継続できる

生活支援コーディネーター活動日誌



岩井東区のサロンにお邪魔しました。
岩井東区は勾配が多く公民館の階段も急ですが、参加者の皆さんはゆっくりと歩きながらお越しになられていました。
春から秋は畑で会うと話し、冬は互いの家を行き来しお茶飲み話しをしたりと、この地区では顔見知りの関係が続いているとのことでした。

「冬の雪以外はいいとこだよ。飯山ならすぐだしね。」と、買い物や通院などは飯山市に行かれる方が多いとのことでした。

「昔は岩井にお店が1件あってそこで色々買えたり、近所の人と話しもできたんだよ。」といったお話もお聞きしました。

「施設や店が市の中心部ばかり。北部方面にも考えてもらいたい。」といったご意見もいただきました。

生活圏が市外ということは他地区にもみられ、永田地区では飯山市の乗り合いタクシーサービスが中野市内まで延長されることが計画されています。



また岩井東区のように、1つのお店が高齢の方々の生活を支え、交流の場となっている、という地区は他にも見られます。

地域毎のニーズに即した生活支援サービスを考える必要性を改めて感じました。

6月は他にもサロンにお邪魔させていただきましたが、立ヶ花区では男性の方の参加が多かったことが印象的でした。

サロンは老人会が無くなったことを機に、その代りの集まりの場として男性役員さんが計画されスタートしたとのことでした。



男性の参加者が多い理由について、「ここは元々地区の行事に男の参加多いよ。それに男は区の役が終わると公民館に来る用事が少なくなるから、サロンが貴重な交流の場になっているんだよ。お酒がでるのもいいのかもね(笑)。こういうの大事だよ、集まってしゃべってさ。」とお話いただきました。



老人会については役員さんの負担が大きくなり、無くなってしまったとのことでしたが、集まる形が変わっても地域での交流を続けられることを学ばせていただきました。



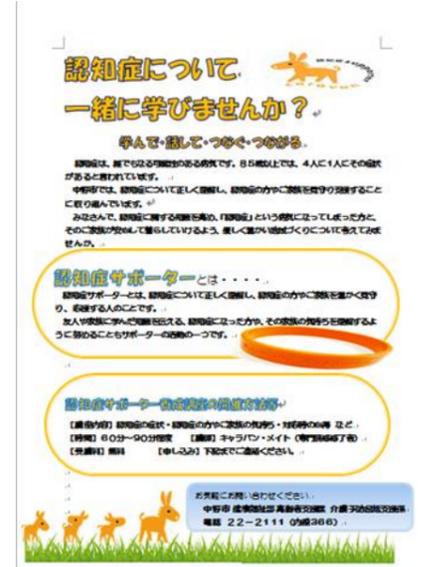
中野立志館高校の生徒さんが授業の一環としてグループホームで交流される場へ伺わせていただきました。

入居者さんとうまくお話ができなかったり、なかなかお茶を飲んでもらえなかったり、といった時でも生徒さんは穏やかに対応されていました。

また、入居者さんが作ったものをさりげなく受け取ったり、紙を優しく手渡したり、といった触れ合いの中で、お互いに笑顔が見られ会話が盛り上がる場面も見られました。

認知症の方が住み慣れた地域で安心して暮らすためには、家族のみではなく、地域の方みなさんの正しい理解と適切なサポートがとても大切です。

立志館高校の生徒さんは事前に『認知症サポーター養成講座』を受講されましたが、受講される方が増え認知症への理解が広がるのが、地域全体で見守り・支え合えることにつながるのではないかと感じました。



【メモ】生活支援コーディネーターとは…

支え合いの地域づくりに向けて、

①地域の中で支え合い活動が生まれるよう、広がるよう、人・場・活動・情報などをつなぎます。

②地域の支え合い活動（『地域のお宝』）を、目に見えるように・活用できるように・役割がわかるように、発信します。

ちょっとした困り事を手助けしてくれるようなボランティアさん、地区の方が気軽に集まれるような場、高齢者に優しいお店やサービス、地域の中で活躍されている方等の「地域のお宝」情報を教えてください☆



安心して年齢を重ねられるよう、地区全体で「支え合い」や「あったらいいな」と思うものを、考えてみませんか？

中野市高齢者支援課
生活支援コーディネーター：小島杏子
電話：22-2111(内線366)